

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認 可
神奈川 碩 心 会 発 行

59年6月現在会員数
逗子地区 165名
葉山地区 301名
大船地区 66名
(合計) (532名)

59年6月号 (143号)
発行 者 萃
根 岸 岳
編 集
中 村 愛 岳

ピチピチ教室に味つけを

堀内支部 F 矢島 佳山

さわやかな初夏の季節となり、周囲の木々も緑いっぱいこの頃です。

五年程前のことです。ある日、それも突然、友達から「詩吟やってみない？」と言われたのが私と吟との出会いです。しかし私は、詩吟というものを全然聞いたことがないわけではなかったのです。私が以前実家にゆきますと、母がよく、テープに吟を何度もくり返し入れながら吟じ、その真似を姪達二人(三・四才頃)がとても熱心によい声で母と共に吟じているのです。正直いって、はじめはウルサイナ／＼という感じでしたが、何回も聞いているうちに、何となくひかれるものがあり、やってみようと軽く素直にその気になったものと思います。男の方は一日のうちで、すべてから離れた時間を持つことができると思います。例えば、仕事を終えて帰宅の途中で一杯飲んだり、本屋で立ち読みすることも解放されたひとときであると思います。でも女にはそれがないのです。そう考えると趣味を持つという事が大事なものになってきます。強制されるものでなく、元気な時には人

間的プラスの面を培ってくれるものであり、体の不調の時には、なおさら又、ガンバッテヤリタイ／＼という希望を与えてくれます。人間一生何でもよい、今、ヤッテイルンダ／＼という事を自分に聞かせる目標があればこそ「生きがい」ではないかと思えます。査定の時の一瞬の緊張感も素晴らしい事と思えます。

さて私の教室は若さでピチピチしております。なお具体的に言わせていたゞければ昔のピチピチ、今のピチピチ、未来のピチピチがいて、本当に楽しいんです。詩吟の味付けをするには、諸先生、諸先輩の方々の御指導が必要と思えます。F教室のピチピチしたものに、どうぞよい味つけをしていたゞきたいと思えます。

私、昨身体調をくずして自信をなくしておりましたが、三月の査定の折、矢島先生の、口では言えない力強い御指導で、皆様におくれましたがお免状をいたゞけた、あの感動は生涯忘れられないものとなると思えます。何でもなせばなる事を教えられました。ありがとうございます。

◎ 秋期審査のお知らせ

とき・59年9月30日(日)
ところ・逗子図書館ホール

昭和五十九年度

碩心会 理事会ひらかる

とき・59年5月19日(土) 18時30分より

ところ・桜山下会館

議 題

- 一、昭和58年度会計報告
- 二、" 会計監査報告
(相違なしと認められる)
- 三、昭和59年度予算審議
- 四、役員改選
(全員留任と決定・別表の通り)
- 五、其の 他

各部長・地区長報告

総務 入会々員の届出について：四月(加藤圭) きりかえ時は早目に手続きを。県本部費の納入は四月一日付の月報人数により処理。

大船地区長 秋の地区温習会は大船地区担当、実施期日は11月中、会場考慮中。(下條)

葉山地区長(沼田) 温習会に協力する。

逗子地区長(千葉劔) 全国大会合吟出吟の場合は、各地区で協力してほしい。

許証 60年末迄審査課題今迄と同じ。

(中村幸) 受付票の年令は事務処理上正確に書いてほしい。

企画 温習会合吟コンクールに多数参加(千葉香) 加の申込みがあった。

教務 吟道誌購読料は今後竹石、又は(竹石) 広瀬方へ納入のこと。

広報 月報に全員掲載を目標として(中村愛) るので原稿を寄せてほしい。

会計 県本部二期分は、今年は特別事情により六月末迄に納入のこと。(秋元)

そ の 他

◇7月29日の県30周年記念大会に当会より210名参加。

◇右会に当会より松井岳洋先生を含め六名の方が高令者表彰を受けられる。

◇右会に当会から左記の方々役員に

沼田洗岳 加藤圭岳 竹石憲岳

千葉劔岳 千葉香岳 中村愛岳

秋元梁岳 村田滯風 立沢御風

◇右会に立沢御風・松井正山・由井良山の三名が構成吟吟者に選出された。

◇10月14日の全国大会(長野)に参加は現在220名位、当会よりは36名が参加、300名で、切るので希望者は地区長を通じて加藤岳相まで。

碩心会 役員

名誉会長	松井 岳洋
会 長	根岸 岳萃
副会長	加藤 岳相
"	小峯 桜岳
相談役	三井 雲岳
総務部長	加藤 圭岳
許証部長	中村 幸岳
教務部長	竹石 憲岳
企画部長	千葉 香岳
広報部長	中村 愛岳
会計部長	秋元 梁岳
葉山地区長	沼田 洗岳
逗子地区長	千葉 劔岳
大船地区長	下條 亮岳
会計監査	井沢 潮岳
"	鈴木 萃岳
碩心会 本部理事	
総務副部長	広瀬 翔風
許証 "	杉山 雪岳
企画 "	村田 滯風
広報 "	岩崎 恵岳
葉山副地区長	沼田 義風
大船 "	森田 暁岳

碩心会 理事

逗子 A	渡辺秀風(尙)	下山口	綱川哲風(尙)
"	鈴木容風	吟甫	渡辺誠風(尙)
逗子 B	田辺伯風(尙)	諏訪	加藤健尙(尙)
桜山 A	荒木笙風(尙)	上山口	福本洋風(尙)
桜山 B	岡野和山(尙)	滝の坂	加藤聖風(尙)
沼間	清水耀風(尙)	風早	石川豊風(尙)
"	松野宝岳	横警	菊川甫(尙)
山ノ根	栗原文風(尙)	上原	鈴木英泉(尙)
銀詠	橋本果風(尙)	"	相多芳泉
葉月	青木梅山(尙)	唐木山	吉井道泉(尙)
真澄	森晴山(尙)	星山	池田延山(尙)
堀内	沼田真風(尙)	平松	鈴木蒼泉(尙)
"	佐藤湧風	大船 A	岩崎恵岳(尙)
"	大石春風	(本部理事兼)	
"	板橋雅風	大船 B	森田嶺岳(尙)
長柄	磯部誠風(尙)	"	田上洲風
一色 A	佐藤魁風(尙)	松和	佐々木幹風(尙)
"	鈴木孝岳	戸塚	鈴木萃岳(尙)
一色 B	加藤朋風(尙)	(常任理事兼)	
"	関口滄風	(28支部 37名)	



第九回碩心会温習会

合吟コンクールに参加して

逗子 A 支部 田中 明山

六月三日、温習会の日は、梅雨のはしりではないかと思わせるような天気でした。当日は会場係を担当することになっていましたので、役員集合時間の八時半少し前に着くと、すでに大半の役員の方々がきており、図書館ホールのドアが開くのを、今や遅しと待ち構えていました。そして準備にとりかかりましたが、こんな天候にもかかわらず、早々と座席に着いている人が多く、その熱意には感心させられました。

定刻九時半、開会の言葉につき、全員による碩心会の詩の大合吟に始まり、第一部、第二部と進み、期待の第三部合吟コンクールになりました。わが逗子 A も、昨年は、惜しくも準優良賞で三位内に入ることができなかつたので、今年こそ、一人一人の力を結集し、一丸となってやるだけやろうとの、先輩リーダーの言葉に、「よしやろう」と皆で誓った。

コンクール順位12番という、順番としてはよい順位に当ったが、次々と各吟を聞いているうちに、自信が失なわれていくような舞台裏での不安な気持ち。12番と叫出

しのマイクで一瞬緊張する。足並揃えて舞台中央へ、そしてメンパー一丸となって吟じた。吟じ終って、音調は高かったが、やるだけやったから悔はないよな...とみんなで慰めあった。あとは審判を待つばかり...。プログラムも進み、最後の役員吟詠も終り、待望の合吟コンクールの審査発表の時がきた。順位採点表が舞台上に発表され、私達逗子 A (男子) が三番に記されているではないか、思わずやったと心の中で叫んでしまった。そして初めての優良賞と、賞品を授与された。この嬉しさを忘れる事なく、今後も今迄以上に吟道に精進してゆきたいと思えました。諸先生方の御指導の程よろしくお願い致します。

温習会盛会に終る

皆さんが日頃の研鑽ぶりを発表され、特に合吟コンクールには24チームが参加、接戦の結果、左記チームが入賞されました。役員皆さん御苦労様でした。

- 一位 最優秀賞 堀内支部 F
- 二位 優秀賞 風早支部
- 三位 優良賞 逗子 A 支部 (男子)
- 四位 準優良賞 真澄支部
- 五位 " 逗子 A 支部 (女子)

練吟メモ

◇短歌の説明をするつもりはありません。統一されたはずなのに、和歌と短歌の区別がまだはっきりしていない方があるようです。吟詠界では、作者で区分し、落合直文以降の作品は短歌、それ以前のは和歌と称することになっていきます。大体明治二十六年ごろから、ということでしょうし、かと思えます。

◇現代短歌は、落合直文とともに始まったといわれています。そして、大正・昭和の時代を経た今日では、間違っても短歌を和歌という人はないと思います。それまでは万葉のむかしから「和歌」であって、千数百年の歴史をもった、もともと日本のなそして伝統ある芸術でありました。

◇和歌は明治期に入ってから「短歌」という名称に変わった。しかし、五七五七七・三十一音の文語形式が今もって保持されていることは、名称は変わったが和歌も短歌も本質的には同じである、ということですね。

◇和歌は読んで字の如く、からうた（唐詩）に対するやまとうたの意で、はじめは長歌・短歌・旋頭歌の三つを指して和歌といったものです。ところが、平安時代以後長歌

・旋頭歌が衰えてしまい、短歌だけが残ったため、和歌は短歌と同義に用いられるようになった、というらしいです。

◇新教本「朗詠集」を見て下さい。凡例及び朗詠本文の「和歌・俳句・近代詩」の説明文は、見出しが「和歌」となっているのに目次は「短歌」となっています。理由はそのあとに「長歌」が一首あるためです。

ついでに、朗詠では、目次の「東の」から年代順に掲載してあるので「富士」までが「和歌」である。御製は「御製」のまゝとして「ふるさとの山」以後はもちろん「短歌」となります。よく見て下さい。

俳句

- 焼く程に 蒼き水噴く 串の鮎
- 釣堀や 釣初めしより 水匂ふ
- 山音に 節固めたる 今年竹
- 嬰粟坊主 丘に正午の 鐘韻く
- 泰山木の 花の座屋の 月呼ばん

(住所変更)

- 191 堀口桂風 横浜市瀬谷区東山八七〇―二三 (電)〇四五―三〇一―九〇二四
- 230 森 泰山 葉山町長柄一四一〇 (電) 同し

(移籍)

(入会)

- 209 西山隆山 滝の坂支部より平松支部へ
- 645 中村勝彦 横須賀市ハイランド三一三一四 (電)〇四六八―四八―八四九四 (逗子A)
- 646 中村豊子 右に同じ (逗子A)
- 647 清野正一 横須賀市岩戸五―九―二 (逗子A) (電)〇四六八―四九―五二六三
- 648 川上征子 逗子市久木三―二―三三 (逗子A) (電)〇四六八―七三―〇五七八
- 649 田中国穂 横須賀市芦名二―八―五 (逗子A) (電)〇四六八―五七―五八〇六
- 650 田中好子 右に同じ (逗子A)
- 651 森久美子 横須賀市林二―一―一六 (逗子A) (電)〇四六八―五七―二五六二
- 652 小菅キク 横須賀市秋谷四―一九五 (上原) (電)〇四六八―五六―五八九一
- 653 梅津宏子 逗子市久木八―七―五五 (逗子A) (電)〇四六八―七三―七三四四
- 654 小金美智子 逗子市久木七―一―四六八―二 (逗子A) (電)〇四六八―七三―七三五五
- (退会)
- 619152 矢部勝山(堀内B) 609 石鍋光子(長柄) 田中又三(堀内B) (電) 同し